

子どもたちによるネット上の 不適切な書き込みの現状

投稿しよう♪



～平成28年度ネットパトロール(二巡回目まで)の結果から～

今年の5月から10月にかけて、小学校と特別支援学校はおよそ半数、中学校と高等学校は各校2回ずつネットパトロールを実施しました。

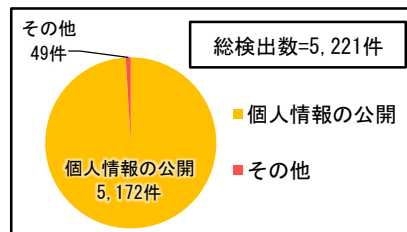
その結果、合計5,221件の不適切な書き込みが検出され、内容としては、

①個人情報の公開

②学校の悪評や特定の個人に対する誹謗中傷の書き込み

③飲酒や喫煙など違法行為を行っていると思われる画像の投稿

などです。中でも①の個人情報の公開は、全体の99%を占めています。



参考：平成28年度ネットトラブル未然防止のためのネットパトロール等業務における問題投稿検出結果

どのような個人情報を公開しているのか？

子どもたちがネット上で行っている個人情報の公開で多いのは、

①交流サイトのプロフィール欄に、学校名や学年、所属している部活動名などを挙げている

②書き込みの中で友人の氏名や顔写真を掲載している

などです。

トラブルや犯罪被害に遭う可能性が高まる！

個人情報を公開してトラブルになった例

※平成28年度ネットパトロールで検出された事例

- ・友人の学校名や顔写真を公開して誹謗中傷した結果、その行為をサイト内で批判された
- ・学校名を明かした上で飲酒している様子を投稿した結果、個人情報とともに拡散された

このように、個人情報の公開をネットパトロールで発見した時点では既にトラブルに発展してしまっている事案は数多くあります。

また、8月号のインターネットの「公開性」でも触れたとおり、子どもたちが各所に書き込んだ情報により、悪意ある人に個人を特定され、福祉犯被害に遭うなどの事案も全国で数多く発生しています。「たかが名前を書き込んだくらいで」では済まされない危険を伴うのが個人情報の公開です。

指導の要点

ネット上のコミュニケーションについては、多くの児童生徒がかかわっており、また、直接書き込みをしていない児童生徒であっても閲覧していることが十分に考えられます。

そのため、ネットパトロールにおいて検出された不適切な書き込みにかかわる情報提供があった際には、該当の児童生徒だけではなく、全校児童生徒に対しても、その問題点や危険性について説諭し、今後、同様の書き込みをすることがないように指導を行う必要があります。